



Japanisch-Deutsche Gesellschaft Nara (JDG-Nara)

奈良日独協会 (会長 河野良文) 奈良市大安寺 2-18-1 大安寺内

Tel/0742-61-6312, Fax/0742-61-0473

<http://www.daijanji.or/jdgn/index.html>

事務局: 加納 (Tel/Fax 0742-22-3636) 林 (hayashi@mercury.sanet.ne.jp)

“これは会員相互のコミュニケーションツールです。皆様からの情報は事務局へ”

行事予定

1. 2011 ピアアイベント

日時: 7月30日(土) 17:30~19:30

場所: ホテル日航奈良 4F 宴会場

JR 奈良駅西口直結 Tel 0742-35-5531

会費: 4,000円

“洋食ビュフェ、フリードリンク”

申込: 7月25日までに事務局宛メール(林宛)

又は電話(加納宛)にてお願いします。

多数の皆様の参加をお待ちします。

会員だより

「ドイツ音楽に魅せられて」

山取陽子(声楽家/合唱指揮者)

ミュンヘン大学在外研究員の主人に伴い、家族で2年近くミュンヘンに在住。その時に、日本人会女声コーラスを指導した事がきっかけで、現地の方と親しくなり、ミュンヘン独日協会の方から奈良日独協会のお話を伺い、2月に入会させていた



だきました。よろしくお願ひ申し上げます。ここ数年は、ミュンヘン在住の友人のお世話で年末・年始にベートーヴェンの「第九」を現地で歌っています。ステージでいつも感じるのですが、第4楽章の途中、チェロの有名なメロディーがピアノシモから始まるとホール全体が聴衆と演奏者の集中力で緊張感に包まれ、張り詰めた空気に満たされます。続いて、シラーの詩<An die Freude>が高らかに歌い上げられ、“Alle Menschen werden Brüder, wo dein sanfter Flügel weilt.”のあたりに歌詞が進んでくるとホールの空間全てが一体化するのが伝わってきます。この瞬間、私は「第九」を心から愛する人々と共にいることに喜びを感じ、ドイツが生んだ楽聖ベートーヴェンの音楽の偉大さに敬意を表さずにいられません。そして、ステージに立ちながら“ドイツ音楽に魅せられた”一人の声楽家としてドイツリートを愛し、これからも歌っていきたくて願ひを新たにします。

最後に余談ですが、7月末に南バイエルン登山夏合宿に参加予定のため、ただ今、自主筋トレニングに励んでいます。オーバーバイエルン夏の景色を満喫してきたいです。

行事報告

1. 平成23年度奈良日独協会総会

(5月28日(土) 14:30~17:00

和ダイニング「花小路」 出席25名(委任状53名)

- 1) 昨年度の事業報告・会計報告等が承認された。
- 2) 河野恵美子、有山正子両理事の理事退任が報告された。ご両氏には協会発足当時から永年に亘り会の発展に寄与されました。感謝申し上げます。
- 3) 事業の企画・運営について問題提起され、実行委員会(仮称)を組織する方向で今後検討することとなった。



2. 講演会「シーボルトの近江の旅」(大津日独協会主催行事、当会より峯本晴輝さん参加)

6月18日(土)梅雨空の中、京阪石山坂本線「錦」駅から、琵琶湖に面したなぎさ公園を目指して歩くと約10分でドイツ風の建物に出た。これが大津日独協会の事務所がおかれているドイツ・レストラン「ヴェルツブルク」だ。

今日の講師は、京都大学名誉教授石川光庸先生で、ドイツ語学、ゲルマン語史などがご専門でシーボルトは専門外だとおっしゃりながら、流ちょうな口調でユーモアたっぷりの講演が進む。

お話は、シーボルトの全貌から始まって、メイン・テーマの文政9年(1826年)の半年に及ぶ江戸参府の途次、大阪・京都・近江ほか各地でシーボルトが見聞した情景が、さながら今日の出来事のように生き生きと展開されて、約1時間の講演があつという間に過ぎてしまった。

講演の後の懇親パーティーは、ドイツ料理にドイツのビールとワインで大いに賑わい、楽しいドイツの夕べを満喫しました。(峯本晴輝さん記)

カンパレなでしこ!

6月26日から7月17日、FIFA女子ワールドカップドイツ大会が開催され、16カ国の代表が世界一の座を目指して戦いを繰り広げます。(左上写真)



--	--